

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
7	12	妥当		A 計画全体及び費用・財源等の見通し	本計画の内容を妥当と評価いただいたものとして承ります。	③参考意見とする	
15	8		市民アンケートでは、10 代の約 60%が「この 1 年間に美術館や博物館など、 美術作品や文化財に触れられる施設を訪れていない」と回答しており、若い世代が歴史・文 化に触れる機会が十分に確保されていない現状が明らかになりました。これは、「伊賀の歴 史や文化を知る機会の不足」「地域への愛着や誇りを育む機会の不足」「豊かな感性を養う体 験の不足」といった社会教育上の課題につながっており、将来の地域を担う世代にとって大 きな問題です。 と記載されていますが大きな施設を作る必要はなく一部の知る機会をもうけて興味関心を働きかける方向性が必要感じる。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	子どもや若者が伊賀の歴史・文化に触れ、 関心を持つ機会を増やすことは重要であると考えています。本計画では、展示のほか、学校との連携や教育普及活動などを通じて、多様な学びの機会を設ける方向性を示しています。まずは歴史・文化への興味や関心を喚起する機会を重視すべきとのご意見として、今後の施設規模や事業のあり方を検討する際の参考とします。	③参考意見とする	
17	12ページ他	財源の確保について	建設候補地の絞り込みの段階から財源の確保は重要な条件として考えられていますが、寄付や協賛、という前に現時点でどのように財源が確保されているのでしょうか。あるいは確保される予定なのかを知りたい。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	建設候補地、施設規模及び整備手法が確定していないため、現時点では事業費及び財源構成をお示しできる段階にはありません。本計画に、建設費及び財源構成について今後検討することを「今後の進め方」として明記します。	①基本計画に反映	○
20	57ページ他	諸室構成表(案)	やはり最も懸念するのは、建設候補地がいつ決まるのか、13ページにある3. 持続可能な管理運営体制の構築がどのような財源確保と収益確保の見通しの元で進められるのか、です。 「諸室構成表（案）の位置づけについて この表に示す諸室および面積は、基本計画に掲げる調査研究、収集・保存、展示・公開、教育・普及、交流、市民協働などといった、機能や活動の実現に必要と考えられる諸室構成を整理したものです。したがって、施設の建築規模や各諸室の面積を確定的に示したものではありません。 また、建設候補地は、現時点では確定するに至っていません。」はよく理解しています。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	建設候補地については、市が各候補地の条件を確認し、施設規模、整備手法、事業費等とあわせて判断することとなります。また、財源、収益、維持管理費及び管理運営体制等は、施設規模及び整備手法が確定していないため、現時点ではお示しできる段階にはありません。本計画に、建設費及び財源構成について今後検討することを「今後の進め方」として明記します。	①基本計画に反映	○
23		費用について	建設費用と維持管理費用の具体的な数値がないので、概算でも提示してほしい。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	建設候補地、施設規模及び整備方法が確定していないため、現時点で建設費及び維持管理費をお示しできる段階にはありません。本計画に、建設費、維持管理費及び財源構成について今後検討することを「今後の進め方」として明記します。	①基本計画に反映	○
24	1	伊賀市美術博物館建設について	今の伊賀市は何をするにも中途半端な気がします。忍者体験施設が新しく出来ましたが、市民さえも興味を持てないです。私が子供の頃はゴールデンウィークには忍者フェスタが開催され、街中に忍者の格好をした観光客で溢れており、子供ながらに凄いなと誇りを感じました。 今のような状態で、新たに施設を作ってもお金の無駄になることは目に見えています。 それならば、今伊賀市で1番集客を見込める建築に特化し、旧市役所図書館を中心に、観光まちづくり、地域について学ぶ場としての役割を進めるべきだと思います。 旧市街地は意外と建築好きな人が楽しめる建築が多いと思います。 上野城をはじめ、上野高校明治校舎、上野市駅、一之湯などの国登録文化財、古民家カフェ等です。 松尾芭蕉については、図書館内に一部展示スペースを設け、市民や観光客など様々な方に俳句を投函してもらえるような形をとればよいのではないのでしょうか。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	美術博物館の整備に当たっては、既存施設との役割分担や連携、中心市街地の歴史的建築物を生かした回遊性も重要な視点です。一方、芭蕉関係資料をはじめとする資料を適切に保存し、調査研究・公開するためには、専門的な環境と体制が必要です。施設整備に対するご意見として受け止め、今後の検討の参考とします。	③参考意見とする	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
25	なし	なし	現在の来場者数や予定集客見込み数、費用対効果がわかる数字がどこにも記載されていないので、この施設がそもそも必要なかどうか判別できません。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	想定来館者数、建設費、維持管理費及び事業効果等を検証することは、施設の必要性や規模を判断するうえで重要です。現段階では候補地、施設規模及び運営方法が確定していないため、現時点でこれらの数値をお示しできる段階にはありません。本計画に、想定来館者数、建設費及び事業効果について今後検証することを「今後の進め方」として明記します。	①基本計画に反映	○
31	52	施設計画の基本方針	7行目以降に--- なお、施設整備においては、住民参加型市場公募地方債の発行を検討し、市民や地域の法人を対象に整備資金を調達し、建設前から美術博物館に関心を深めて貰い、購入プレミアムを付与し、入館を無料にしたり、運営についても協力を求めるものとする。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	住民参加型市場公募地方債は、市民や地域の法人が資金面から施設整備に関わり、施設への関心を高める手法の一つと考えられます。制度の適用可能性、発行規模等の課題を踏まえ、今後、管理運営計画等の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
46	16～21	基本的な考え方について	第2章基本的な考え方については、施設の目指す姿及び設備の基本理念の4つの役割と機能等大変素晴らしいと感じました。特に松尾芭蕉のホンモノに触れる機会は他にはなく大変素晴らしいと思います。ただ、どのくらいの方がここを訪れるのか？1度は行ってもリピーターはいるのか？等々疑問も残りました。更に本資料では訪れる人々の回遊性を高め本市の活性化につなげるとありましたが、果してどうなのか？ いくつかの疑問は残るものの、伊賀市発展のため是非計画を進め素晴らしい伊賀市美術博物館を実現してください。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	想定来館者数、リピーターの確保、中心市街地への回遊及び地域活性化への効果を検証することは、施設の事業内容や運営方法を具体化するうえで重要です。今後、本計画に、想定来館者数及び事業効果等について検証することを「今後の進め方」として明記します。	①基本計画に反映	○
59	50	建設候補地について	建設候補地が確定していない段階で、展示室構成や諸室面積、動線計画まで詳細に踏み込んだ計画が示されている点に強い不安を感じます。立地条件によって必要な機能や規模は大きく変わるはずであり、候補地未確定のまま計画だけが先行するのは、市民合意形成のプロセスとして不十分です。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	候補地が確定していない段階で、詳細な計画が先行しているように見えるとのこと懸念については、市民の皆さまに対し、各段階に応じて説明の機会を設けながら進めてまいります。	③参考意見とする	
64	芭蕉記念館建替え時期相応でない。	美術館時期相応でない。	現在の資材高騰化で各建設計画は異常、現存の物を大切に修復し浪費を減らし歴史、市民を大切にすることを目指すべきです。 新市役所を建設する際にも旧市役所は危険がある使用出来ないと言いながら新市役所建設後、補修し図書館、ホテル他に使用している。補修が可能であった事がうかがえる。前半で9000強の署名があったと記載されているが伊賀中心市街地の者が多く伊賀市の年間行事も参加が中心地に集中している市民税等は平等でありながら税金の無駄遣いをしないで欲しい。中心地の方が強力に望むのであれば地域負担で新設管理をして欲しい。（自覚を持つ）ハイトピア伊賀側のトイレの管理状態もヒドイ。現状施設管理ができない中負担を増やすべきでない。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	資材価格の高騰、市の財政負担、既存施設の改修・活用の可能性及び整備後の維持管理費を慎重に考える必要があるとのご意見として承ります。既存施設を大切に活用すべきとの考えや、将来の維持管理能力、地域間の負担のあり方等に関するご意見については、今後、市が事業の実施を判断する際の参考とします。	③参考意見とする	
76	21	施設の「役割」と「機能」の整理	4つの役割と機能は良いと思います。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	施設の4つの役割と機能について評価いただいたものとして承ります。	③参考意見とする	
81	7	（3）美術館建設に関する市民からの要望と議会の動き	「美術館建設を求める会」から旧上野市庁舎を活用した美術館・芭蕉記念館・博物館の複合施設の要望があったが、旧市庁舎がもう使えないのでこの複合施設の考え方は間違っている。芭蕉記念館と美術博物館とは分けて考えるべき。芭蕉は楽しく学び、美術館は人を寄せる場とする。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	本計画では、松尾芭蕉を施設の中心的な柱として位置づけるとともに、芭蕉を育んだ伊賀の歴史・文化・美術とのつながりを一体的に伝える施設をめざしています。芭蕉翁記念館と美術博物館を分けて整備するとのご提案については、施設の基本的な構成に関するご意見として承り、今後の検討の参考とします。	③参考意見とする	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
84			全ページを閲覧して問題はありませんでした。これまで会議を重ねて積み上げた中間案が出来ているのに前に進められないのはなぜなのかそこが問題です。まず、場所の決定が必要ではないですか。それについての原案が示されて反対があれば代替案を出して検討していただきたい。人口8万もある町でその町の歴史と文化を紹介する場、資料を提供する場を完備できていないことに市長の見識を聞きたい。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	基本計画を具体化していくためには、建設候補地の決定が重要であると認識しています。建設候補地については、市が各候補地の条件を確認し、施設規模、整備手法、事業費等とあわせて判断することとなります。今後の候補地決定の進め方を考える際の参考とします。	③参考意見とする	
85	13	市民参加と合意形成	「市民アンケートやパブリックコメントで示された多様な意見を踏まえ、幅広い世代の声を反映しながら、合意形成を図ることが不可欠です。」と書かれている通り、いつものようにパブリックコメントを単なるアリバイ作りとされないことを望みます。	A 計画全体及び費用・財源等の見通し	パブリックコメントでいただいたご意見は、基本計画の内容を検討するうえで重要なものと受け止めています。いただいた意見については、意見の内容、市の回答案、対応区分及び基本計画への反映の有無を整理し、建設準備委員会で確認いただきます。今後も、検討状況を市民と共有しながら、基本計画の具体化を進めていきます。	③参考意見とする	
5	52	建設候補地について	桃青中学校跡の場合、駅から上り坂となります。タクシーや公共交通機関の拡充も課題になると思います。（費用対効果の問題はありますが）	B 候補地及び評価軸	基本計画の「建設候補地」に、駅からの高低差、高齢者や障がいのある方の移動のしやすさ等を評価することを明記します。	①基本計画に反映	○
9	52ページ	建設候補地について	現在のところ建設候補地は「桃青中学校跡地」になっており、資料に記載のように「敷地規模」や「交通アクセス」が良いのは理解できます。交通アクセスの点で言うと、伊賀鉄道の上野市駅が近くて良いのですが、どうしても自動車で来館される方が多くなると考えられますので、一定数が駐車できる駐車場は確実に整備していただきたいと思います。	B 候補地及び評価軸	必要な駐車台数や駐車区画については、候補地の敷地条件、想定来館者数、公共交通の利用状況及び周辺道路への影響等によって異なります。自動車で来館する方のために十分な駐車場を確保すべきとのご意見は、候補地や施設規模を具体化する際の参考とします。	③参考意見とする	
14	52ページ	建設候補地について	旧上野図書館より、桃青中学校跡の方が色々な点で良いと、判断されているようなので、それで良いと思います。	B 候補地及び評価軸	アクセス、敷地条件、災害リスク、事業費等を総合的に評価し決定していきます。今後の検討の参考とします。	③参考意見とする	
16		建設候補地について	旧桃青中学については高台であり、公共交通機関を利用促進や高齢者及び障がいのある方には行き難いのではないかと考える	B 候補地及び評価軸	基本計画の「建設候補地」に、高低差、歩行者動線、高齢者や障がいのある方を含む誰もが利用しやすい環境等を評価することを明記します。	①基本計画に反映	○
26		建設の場所については、自分はもう少し検討が必要かと思います。同じ敷地に桃青の丘幼稚園があるので、幼稚園と博物館が一緒になっているのは個人的にはどうかと思います。小さいお子さんが出入りするので、安全面でどうかと思います。	博物館の建設については、自分は賛成です。伊賀市の魅力をアピールするのに、いいアイデアだなと思います。	B 候補地及び評価軸	基本計画の「建設候補地」に、周辺教育施設や住環境への影響、子どもの安全、歩行者と車両の動線等を評価することを明記します。	①基本計画に反映	○

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
30	52		基本構想で優位とされていた桃青中学校跡だが、1854年の安政伊賀上野地震の被害損所絵図では、二之丸と呼ばれていたこの敷地も広範囲に被害を受けたようである。また、進入路は、幼稚園敷地内であり、観光バスの乗り入れには適さない。図書館跡も無理がある。 一方、ふれあいプラザ跡のなかまちでは、安政地震の家屋倒壊があったとの表示がない。現有面積に課題が有るが、不特定多数の来館を前提とした美術博物館では、地域や観光施設との連携は必須であり、高虎さんの造った城下町として観光客の受入れができ、芭蕉さんが生まれ育った魅力有る伊賀の歴史、文化との融合が可能となる。	B 候補地及び評価軸	建設候補地を検討する際に、観光バスを含む交通動線等を確認する必要があるとのご意見を踏まえ、これらを候補地の評価における視点として基本計画に反映します。一方、ふれあいプラザ跡周辺を新たな候補として検討するとの具体的なご提案については、候補地検討における参考意見とします。	①基本計画に反映	○
33	8	旧図書館	現状より、駐車場の面積を広げる。旧図書館は1台のスペースが狭く、乗り降りが大変。余裕のある1台の分のスペースへ改善を希望します。	B 候補地及び評価軸	旧上野図書館を活用する場合には、現在の駐車場の状況や敷地条件を踏まえ、駐車台数、駐車区画の幅、乗降のしやすさ、安全な歩行者動線等を確認する必要があります。ゆとりのある駐車区画を確保してほしいとのご意見は、候補地や施設の整備条件を検討する際の参考とします。	③参考意見とする	
34	8	旧図書館	kズ電気近くの駐車場から送迎バスを運行する。	B 候補地及び評価軸	周辺駐車場を活用して送迎バスを運行するとのご提案については、候補地決定後の交通手段や来館方法を考える際の参考とします。	③参考意見とする	
35	建設予定地	旧桃青中学校	旧桃青中学校は2009年に廃校となっていますが、耐震補強はされているのでしょうか？ 耐震補強がされているなら、高台であり、水害、火災リスクは小さく良いところだと思います。 高齢者にとっては、坂道がきついかもかもしれませんが、。 耐震補強がされていないと費用が高くなるのでは？ 総工費、工期はどの程度見ているのかわかりませんが、耐震補強をしてでも私は旧桃青中学校がいいと思います。 旧桃青中学校跡地は面積もあるので、ワークショップエリア、イートインエリア、屋外にも、芝生公園、遊具施設、屋外ホール、避難場所なども併設し、総合的な施設になればいいと思います。 松尾芭蕉、忍者、歴史的なものを守っていくために、必要な施設だと思います。 そのために、老弱男女問わず現地に行きたくなる、市民の憩いの場になる、いざという時に市民が守られる施設になるなど幅広い視点で計画して頂きたいです。	B 候補地及び評価軸	旧桃青中学校については、既存校舎を活用するのか、解体して新たに整備するのかを含め、現時点では整備方法を決定していません。屋外空間、飲食・休憩機能、ワークショップ、防災機能等を備えた総合的な施設とするとのご提案については、施設整備を具体化する際の参考とします。	③参考意見とする	
45	12ページ	建設候補地に関して	桃青中学校や旧図書館はアクセス条件が悪く感じた。伊賀市全体が道幅も狭く自家用車でも走るのに便利とは言い難い。美術館ともなると定期的に期間限定での展示会を催さないと、集客力は弱いし収益も上がらない。しかし、人気の有る展示会を開催すると鉄道が不便だが、名阪国道が有るので車ででの来場客が増えるのは必至。渋滞や駐車場不足だと思う。鈴鹿市のF1も開催での収益は上がるが国道の規制やアクセスの問題等で市民からは、開催を手放しで喜ぶ声よりも不満の声が多いと聞きます。まずはインフラ整備をキッチリして中心部では無くても魅力ある美術館なら収益は上がると思う。 伊賀上野城も予算の都合で実在しない模造天守ではありますが、展示されている品々は美術館に引けをとらないと思うので、そちらにもっと予算を掛ける方が良くかと。	B 候補地及び評価軸	建設候補地を検討する際には、周辺道路の状況、交通量、渋滞、駐車場、公共交通及び周辺住民への影響等を考慮する必要があります。施設整備に先立って周辺の交通環境やインフラを十分に整えるべきとのご意見、並びに伊賀上野城をはじめとする既存施設への投資を優先すべきとのご意見については、今後の事業判断や既存施設との役割分担を考える際の参考とします。	③参考意見とする	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
47	52	建設候補地について	どこに建てても構いませんが、公共の施設ですので、誰もが、例えば車椅子の方でもお一人で訪れることができるようになる工夫をしてください。	B 候補地及び評価軸	障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して自立的に利用できる施設とすることは重要です。基本計画の「建設候補地」に、誰もが利用しやすい環境を評価することを明記します。	①基本計画に反映	○
52	12ページ	(3) 建設候補地	桃青中学校跡地を候補地とする考えに賛成です。周辺観光施設との連携や回遊性に期待します。	B 候補地及び評価軸	建設候補地に関する賛成意見及び周辺施設との連携・回遊性への期待として承ります。	③参考意見とする	
60		第一に「駐車場確保」が出来る土地、第二に巡回バスが通る道。理由 車社会の土地で駐車スペースがないと集客は難しい。第二に免許返納世代が増加するのに足がないと、集客(以下同文)		B 候補地及び評価軸	駐車場を確保でき、巡回バス等が利用できる場所を候補地とすべきとのご意見として、今後の候補地選定の参考とします。	③参考意見とする	
72	52ページ	建設候補地について	「桃青中学校跡」について思うのは、高台にあるので夜景が綺麗なのではないかなと思います。 伊賀において室内から夜景を望める場所はあまりないので、悠久の歴史に想いをはせて夜景を眺められる夜カフェ（ショットバーでも）みたいなのがあると良いかなと思います。本当は、アルコールを飲みながら純烈ショーならぬ忍者ショーを観れる場所などがあると観光客の宿泊推進にもなるかなと常々思っていますがさすがにこれは美術博物館に併設するのは難しいかと。 反対に美術博物館は「桃青中学校跡」でなくても良いのではとも思います。 保存保護の観点で高台が良いのでしょうか。これだけの機能を持たせようとすると「旧上野図書館」では狭い気がするので2択で選ぶなら「桃青中学校跡」ですが、、他に適地はないものかなと思います。	B 候補地及び評価軸	桃青中学校跡の眺望や高台という特性を生かした夜間利用、カフェ等のご提案については、候補地や施設の魅力を考える際の参考とします。	③参考意見とする	
73	52	建設候補地について	東青中学跡地:アクセスに坂道がある。 図書館跡地:駐車場がない。最近、愛知陶磁美術館、日本一短い手紙の館、福井清少納言の記念館などを見てきましたが、いずれも平坦な立地にありアクセスの良いところにあります。ゆめが丘とはいかないものでしょうか。	B 候補地及び評価軸	基本計画の「建設候補地」に、高低差、高齢者や障がいのある方を含む誰もが利用しやすい環境等を評価することを明記します。	①基本計画に反映	○
75	12	建設候補地について	建設候補地について、桃青中学校跡は良いと思います。	B 候補地及び評価軸	桃青中学校跡を建設候補地とすることへの賛成意見として承ります。今後の検討の参考とします。	③参考意見とする	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
79	52ページ	建設候補地について	「桃青中学校跡」が優位といったんは結論づけられたとのことですが、どういう人に来館していただきたいかという顧客ターゲットから考慮すれば、より中心市街地に近い「旧上野図書館」を建設候補地として選定し、多層階の建築物とすることが望ましいと考えます。（その理由）・十分な敷地規模を有するという要素で「桃青中学校跡」を選ぶとなれば、敷地内の駐車場まで車で来て、ひととおり館内を回った後はまた車で伊勢志摩など他地域へ行ってしまいうという従来から指摘されている市内観光（上野城、忍者博物館、だんじり会館など）の弱点「ちょっと立ち寄り観光」から脱却することができません。・来館していただいたからには、展示内容を見ていただいたうえで、芭蕉翁生家・芭蕉句碑といった芭蕉関係スポット、藤堂高虎が築いた城下町、武家屋敷、寺町通り、伊賀グルメ（伊賀牛、忍者関連料理）などを実際に散策して体感していただくことが重要です。そのためには、「旧上野図書館」のような街中に多層階の美術博物館を建設し、最高層階から城下町を一望できるようにすることで、中心市街地（城下町）へ誘う仕組みを構築することが必要と思います。・「旧上野図書館」では、駐車場を確保することは困難ですが、車で少しかだけ立ち寄る人を主な顧客ターゲットとするのではなく、徒歩でも（できれば公共交通を利用して）来館いただく人を大切にすべきではないでしょうか。	B 候補地及び評価軸	旧上野図書館を活用した多層階の施設とする具体的なお提案については、敷地条件、法令上の制約、建設費、維持管理費及び資料の保存環境等を踏まえ、候補地検討における参考意見として承ります。	③参考意見とする	
80	52	建設候補地について	桃青中学校跡が優位としているが中心市街地活性化の視点からは伊賀鉄道から南側とし、旧上野図書館又はふれあいプラザ周辺にすべきである。	B 候補地及び評価軸	建設候補地を考えるうえでは、施設単体の条件だけでなく、周辺施設との連携、中心市街地への回遊及び地域活性化への効果も重要な視点です。中心市街地の活性化を重視すべきとのご意見については、今後の候補地検討における参考意見とします。	③参考意見とする	
86	12	建設候補地	桃青中学校跡については上野公園とを結ぶ橋が文化財保護の関係で掛けられないので過去に没になったのではなかったのか？技術的あるいは法的に橋を掛けられる目処が立ったのか？上野公園とのアクセスを諦めるのか？	B 候補地及び評価軸	上野公園とのアクセスや周辺施設との連携については、今後の候補地検討における参考意見として承ります。	③参考意見とする	
1	41ページ	常設展示について	芭蕉の名前は知っていても、その俳句がどのように素晴らしいのかは私も含めて知らない人が多いのではないかと思います。芭蕉の俳句を複数の専門家の人が解説した数ページ程度の小冊子があればいいなと思います。若い人はデジタルがいいのかもしれませんが私の世代は紙が良いです。	C 展示・鑑賞・体験	松尾芭蕉の俳句の魅力や背景を、専門的な内容を踏まえながら分かりやすく伝えることは重要であると考えます。展示解説については、デジタル媒体だけでなく、年代や利用方法に応じて選択できるよう、小冊子やパンフレットなどの紙媒体も含め、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
2	46	藤堂高虎と「秘蔵の国」伊賀	大河ドラマを通じて藤堂高虎が注目を浴び、特集も組まれるほどとなっております。 既に、秋ごろにかけて藤堂高虎に関するイベントも実施するとSNSを拝見しましたが、定期的な情報発信とトレンドに乗るような企画設定がされるとより盛り上がると思います。	C 展示・鑑賞・体験	社会的な関心や時機を捉えた企画を行うことは、美術博物館への関心を高めるうえで重要であると考えます。藤堂高虎をはじめ、伊賀にゆかりのある人物や歴史を題材とした企画、継続的な情報発信については、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
8	39ページ	展示室の構成と考え方	常設展示の展示内容については、伊賀の歴史・文化を資料の魅力と背景が伝わる感じで紹介します。とありますが、伊賀にはいろいろなものがあります。例えば、食べ物で言えば「かたやき」「漬物」「日本酒」「田楽」「丁稚ようかん」などがありますので、その歴史も併せて展示してはどうかと思います。また、「伊賀焼」や「伊賀くみひも」もありますので実際の品物や歴史についても展示してはどうかと思います。	C 展示・鑑賞・体験	伊賀の食文化、伊賀焼、伊賀くみひもなどは、地域の暮らしや産業の歴史を伝える重要な文化資源であると認識しています。どの資料やテーマを常設展示又は企画展示で取り上げるかについては、資料、調査研究の成果等を踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
18	24ページ他	美術博物館は、これらの方針を実現する拠点として、調査研究・収集保存といった基盤機能を確かに担いながら、学び・創作・交流・連携を生み出す役割を担います。	美術館の役割が広く大きくなっていることがわかりました。けれども、「集う」38ページの「自然に生まれる交流とコミュニケーション」にはまだ具体的なイメージがわかりません。見たい、知りたい、作品と静かに対峙したい、そして感じたい、感動したい。という視点が弱まってはいけないのではないかと思います。	C 展示・鑑賞・体験	作品や資料と静かに向き合い、感じ、考え、感動できる環境は、美術博物館の基本となる重要な機能です。静かな鑑賞空間と交流空間の配置等は、今後、基本設計の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
19	31ページ他	「3.継続学習と成果共有」のなかで	「地域で暮らし働く人々を題材にした学びと交流」の意味がわかりません。	C 展示・鑑賞・体験	「地域で暮らし働く人々を題材にした学びと交流」は、市民や企業も参加し、地域で暮らし働く人々が持つ知識、経験、仕事及び暮らしから学ぶ機会をつくる趣旨です。基本計画の該当箇所を、この趣旨が分かりやすく伝わる表現に修正します。	①基本計画に反映	○
21	31ページ他	ギャラリートーク	ギャラリートークと聞くと、学芸員や作家本人による解説ツアーやイベントですから、「自分のお気に入りの資料」、というのではなく、プログラムで勉強した内容をわかりやすく来館者に説明する、という表現が良いように思います。 解説を聞くのと聞かないのとでは、展示に対する興味と理解と記憶、さらなる学習への意欲が違うので、ぜひギャラリートークを開催してほしいと思います。	C 展示・鑑賞・体験	子ども学芸員プログラムでは、参加者が学習成果をもとに、自ら選んだ資料の魅力や背景を来館者に分かりやすく紹介する活動を想定しています。基本計画の記載を、この趣旨が明確に伝わる表現に修正します。学芸員や作家等によるギャラリートークは、今後、事業活動計画の中で検討します。	①基本計画に反映	○
22	39ページ	企画展示について	企画展示は伊賀に拘らず、有名無名を問わず、新進の芸術家の作品を定期的に展示しては。	C 展示・鑑賞・体験	企画展示では、伊賀に関するテーマだけでなく、国内外の美術作品や現代アートなど、多様な表現に触れられる機会を設けることを想定しています。新進の芸術家の作品を含め、具体的なテーマ、開催頻度、作品の選定等については、今後、展示計画や事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
27	29、39	企画展示について	企画に展示については、伊賀に関連する企画をいう縛りを設けず、難しいかもしれないが、集客力のある企画を検討してほしい。現状、見たいと思う企画の展示は他県、他市の美術館、博物館で行われており、見に行くための難易度が上がっている為、29ページにあるように他の博物館、美術館と提携して巡回展、共済展は積極的に行なって欲しい。	C 展示・鑑賞・体験	企画展示については、伊賀の歴史・文化を深く伝える展示に加え、国内外の作品を取り上げた展示も想定しています。他の博物館・美術館との連携による巡回展、共催展、資料の借用、集客力のある企画等については、今後、展示計画や事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
28	46	忍び国伊賀	忍者の史実、歴史は語られてきたが、リアルと言う点では服部半蔵、百地丹波、音羽の城戸といった個人や家の歴史や子孫といったものが、調べられているのか、聞いたことがない。 リアルと言う点では片手落ちだと思います。 甲賀忍者はもっと特定されていたと思います。	C 展示・鑑賞・体験	伊賀流忍者については、伝承だけでなく、史料や調査研究の成果に基づいて歴史的背景を伝えることが重要であると考えます。地域に残る資料や伝承の調査、関係機関や研究者との連携については、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
29	53から60	機能配置計画	施設計画について、あまりにも博物館過ぎて、どうかと思う。確かに市民のための博物館であり、資料保存施設ですが、極、一部の人のための博物館になってしまうのは、造りを見ても思います。 市民にボランティアを募って、物品販売を計画してますが、誰に売るのが？と思います。 こんな一部の人の施設にするなら、反対意見もありますが、観光客を呼び込む施設を目指すのもあり、と思います。 芭蕉も生まれ故郷というだけで、一部の人には興味深いですが、唯それだけです。芭蕉と言うと、奥の細道です。それを前面に出して、旅立ちから大垣までリアル体験出来るような施設になったら楽しいと思います。	C 展示・鑑賞・体験	美術博物館は、資料を保存・研究する専門的な機能を担うとともに、市民や観光客が分かりやすく楽しみながら伊賀の魅力を知ることができる施設をめざしています。奥の細道の旅を体験的に学べる展示など、芭蕉に親しんでいただけの展示手法については、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
32	37ページ	展示計画の基本方針	育む～五感でつながり、心を育む展示ですが、基本構想の4つの基本理念をそのまま展示計画としていますが、22ページの施設のテーマには、『未来を創るミュージアム』とし、伊賀の歴史文化を未来へ継承するとともに、新たな文化を創造する場だと記載しています。 よって、4つの理念に含まれていない『創』又は『楽創』について定め、市民の誰もが、どこでも歴史、文化に身近に接する機会の充実に努めるとともに、若者や活躍しているアーティスト等の活動環境を更に充実し、新たな伊賀の文化を楽しく創造することに寄与する施設となることを記載して欲しい。	C 展示・鑑賞・体験	「育む」の中に創造性を育てる視点を位置づけ、施設のテーマとして「未来を創るミュージアム」を掲げています。このため、基本理念は現行の4つを維持します。若者やアーティストの活動支援、新たな文化を創造する具体的な取組については、今後、展示計画や事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
36	展示エリア	展示エリアスペース	常設展示エリアだけでなく、特別展示エリアも設けておき、伊賀ゆかりの他所美術館からのレンタル展示などの特別展なんかを定期的に企画し、メリハリある展示で集客してはいかがでしょうか？	C 展示・鑑賞・体験	常設展示室とは別に企画展示室を設け、国内外の関連施設から資料や作品を借り受けた企画展示を行うことを想定しています。具体的な展示テーマ、開催頻度、他館との連携方法等については、今後、展示計画や事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
37	掲載ページなし	該当箇所なし	計画案への意見ではないのですが要望です。 書道家 榊 莫山さんも伊賀で育ち晩年、伊賀に戻られてたようです。 青山の山頂から伊賀を眺めて書を残されてます。 作品や資料もたくさん残されてると思います。 三重県立美術館で展覧会をされましたが、美術博物館でもご紹介頂けないでしょうか。 (既にご用意されましたら申し訳ございません。)	C 展示・鑑賞・体験	榊莫山氏は、伊賀にゆかりの重要な文化人の一人であると認識しています。その作品や資料を通じて伊賀の文化を伝えることは意義があることから、資料調査、作品借用又は企画展示での紹介等について、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
39			いわさきちひろ美術館、大山崎美術館、佐川美術館、東山魁夷美術館、それぞれ、特色があって楽しい美術館です。松尾芭蕉のことを、子供たちに教え伝えていくのも大切だとおもいますが、あまりに、固執しすぎているのでは？美術館にくるのは、教授や専門家ばかりではなく、わたしたちのような、普通の人であることを、忘れないでほしいです	C 展示・鑑賞・体験	美術博物館は、専門家だけでなく、子どもから高齢者まで親しんでいただける施設をめざしています。松尾芭蕉を重要な柱としながら、伊賀の歴史、文化、美術を幅広く紹介し、誰もが楽しめる展示や活動となるよう、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
49	46	展示構想	伊賀の国の過去から現在への変遷がわかるジオラマの作成を是非とも入れてほしい。特に藤堂高虎が作った城下町を入れてほしい。	C 展示・鑑賞・体験	伊賀の地形や歴史、城下町の成り立ちを、ジオラマや模型を用いて視覚的に伝えることは、幅広い世代に分かりやすい展示手法の一つです。藤堂高虎による城下町形成を含め、具体的な展示テーマや表現方法については、展示スペース、整備費及び更新性等を踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
55	10ページ	育む	ターゲット層の基本方針を明確にすべきです。計画書は全体として、最初から松尾芭蕉や伊賀の歴史、美術に強い関心を持っている人だけ来ればいいという、閉鎖的な内容になってます。 若い世代や市民に関心を持たせると書いてますが、中身は専門的な知識の押し付けばかりで矛盾してます。これでは興味のない人は足を運びませんし、地域の愛着や誇りを育むことにも繋がりません。アクセスの良さをアピールしても、施設自体に魅力がなければ意味がないです。 既存のファンだけの勉強の場にするのではなく、関心の薄い層にまず好きになってもらい、興味を持ってもらうためのハードルを下げる工夫を、基本理念の段階から打ち出すべきです。詳しく調べるための勉強は、興味を持った後のステップだと思います。	C 展示・鑑賞・体験	誰もが「行ってみたい」と感じていただける施設とすることが重要です。来館者の年齢、関心、利用目的等を整理し、展示、体験、広報、サービスについて、今後、事業活動計画等の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
58			現在だんじり会館は立派なのがあるので芭蕉記念館をもっと立派にすべきだと思います 芭蕉祭という大きな行事をやっているのだからもっと芭蕉の名を出すべきであって、歴史美術館の中に芭蕉さんを入れるのは反対です 芭蕉館に併設した歴史美術館にすべきだと思います 山形の山寺の麓にある芭蕉記念館はとても立派でした 「東北の方は芭蕉さんをとても大切にしてい」と伊賀のある方から聞きました また伊賀地方のみならず三重県内に多大な貢献をした「田中善助翁」は余り語り継がれていませんが伊賀人として誇れる田中善助翁の名をもっと広めて欲しいと思います 私の生まれは伊賀ではありませんが伊賀に嫁ぐことが決まった時、祖父から伊賀には「田中善助」という立派な方がいた事を話してくれました 是非この地方で胸を張って語れる「田中善助」の名前をもっと広めて欲しいと思います	C 展示・鑑賞・体験	本計画では、松尾芭蕉を施設の中心的な柱として位置づけ、独立した芭蕉エリアを設けるとともに、資料の保存、調査研究、展示の充実をめざしています。一方で、伊賀の多様な歴史・文化・美術とのつながりも伝えることで、芭蕉を育んだ伊賀の魅力を総合的に発信したいと考えています。田中善助翁をはじめ、伊賀にゆかりのある人物の紹介については、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
66	9ページ	デジタル・体験型の活用不足と参加機会拡充	AR・VRなどのデジタル技術を活用した体験型展示、ワークショップなど、子供たちが楽しんで興味を持てるので良いと思う	C 展示・鑑賞・体験	AR・VR等のデジタル技術や体験型展示は、子どもや若者が楽しみながら伊賀の歴史・文化に関心を持つきっかけとなる手法の一つです。具体的な技術、内容、更新方法等については、費用対効果や継続的な運用を踏まえ、今後、展示計画等の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
68	45	第2章	演出アイデア 壁面：大型高精細CGシアター 現在の伊賀盆地とは全く異なる、かつて存在した「古琵琶湖（巨大な水の世界）」を再現。そこから数百万年をかけた地殻変動により、徐々に水が干上がり、現在の豊かな伊賀の地形（盆地や山々）が形成されていくプロセスをダイナミックな高精細CGで上映。 フロア：1/10スケール 超精密大型模型 スクリーン手前に、弥生・古墳時代の伊賀の集落を1/10サイズで完全再現した大型ジオラマを配置。大自然の変遷から、人の定住・文化の誕生へとつながるストーリーを立体的に体感させる構成。	C 展示・鑑賞・体験	伊賀の自然、地形、考古、歴史を分かりやすく伝える具体的な展示手法については、展示スペース、整備費及び更新性等を踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
74	12	芸術の街伊賀	伊賀焼、芭蕉の手紙などは大変な価値がありますが、いずれも「茶色系」であり華やかさに欠けていると思われますがいかがでしょうか。展示の仕方次第でしょうか？ 基本計画は分かりやすい内容ですが、伊賀市美術博物館は博物館メインの2頭立て？でしょうか。 ー市民として、後世に誇れるものが出来ることを信じ、期待をしています。 阿山のホールの二の前はいただけません。よろしくお願いいたします。	C 展示・鑑賞・体験	伊賀焼や芭蕉関係資料等の資料が持つ本来の魅力を生かしながら、照明、色彩、映像、展示空間及び現代美術との組合せ等を工夫し、幅広い方に魅力を感じていただける展示とすることが重要です。また、美術、歴史及び芭蕉の各展示のバランスについては、施設全体のテーマや資料の特性を踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
77	39	展示室の構成と考え方	展示のゾーン分けは魅力的だと思います。具体的な提案は出来ませんが、展示については、歴史と現代が行き来できる工夫、動きがあって理解が容易である工夫、現在のテクノロジーが駆使されている工夫、地域を支えてきた人々の営みがわかる工夫をお願いしたい。	C 展示・鑑賞・体験	歴史と現代を行き来できる展示、動きがあり理解しやすい展示、デジタル技術を活用した展示、地域を支えてきた人々の営みが伝わる展示は、伊賀の歴史・文化を幅広い世代に分かりやすく伝えるうえで重要です。具体的な展示構成や展示手法については、資料の特性、更新性及び維持管理等を踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
78	49	伊賀の歴史文化を掘り下げる、と美術の世界に触れる	三重県の中の伊賀の歴史的地理的な位置と特徴、日本史・世界史の中の伊賀の役割・特徴、美術界における伊賀の位置と特徴を知りたいと思います。また、過去・現代の伊賀にかかる芸術家の紹介・展示を幅広くお願いします。	C 展示・鑑賞・体験	三重県、日本及び世界の中における伊賀の歴史的・地理的な位置や特徴を示すことは、伊賀の歴史・文化をより深く理解するうえで重要です。また、過去から現代までの伊賀にゆかりのある芸術家を幅広く紹介することについても、所蔵資料、調査研究の成果及び作品借用の可能性等を踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
82	57	（2）展示部門①②③	①②③すべてが中途半端になってしまい空中分解してしまう。芭蕉にしばらく（1）学術的な部分、（2）楽しくためになる部分、（3）子供たちが俳句が好きになるような遊びと学びの部分にすべき。例えば（2）では奥の細道を再現し来場者が歩きながらその場所での句やその状況を体験してもらう。	C 展示・鑑賞・体験	松尾芭蕉を中心的な柱として位置づけ、学術的な調査研究の成果を伝える展示、楽しみながら学べる体験型展示及び子どもが俳句に親しむ展示を行うことを想定しています。奥の細道を歩くように体験しながら作品や旅の背景を学ぶ展示等については、具体的な展示構成、資料保護、整備費及び更新性等を踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
87	39	展示室の構成と考え方	伊賀市ゆかりの文化人・偉人である榊莫山、元永定正、横光利一、橋本策の4名について、総合展示内の一画（パネル展示等）や企画展に留めるのではなく、それぞれ独立した常設の展示室、またはそれに準ずる独立した常設展示スペースを設ける計画へと変更することを求めます。彼らは、いずれも国内および国際的に極めて高い評価を確立しており、単一の自治体において「市立記念館」が独立して建設されても何ら遜色のない水準の業績を有しています。榊莫山は、ご承知の通り、伝統的な書の枠を超え、独自の墨画・書の世界を切り拓いた前衛書家であり、現代日本の書道・美術史において大衆的認知と芸術的評価を両立させた稀有な存在です。元永定正は、ご承知の通り、日本の現代美術史において世界的に名前が知られる最重要画家の一人です。作品がニューヨーク近代美術館（MoMA）等に永久収蔵されている、国際的評価が極めて高い現代美術の巨匠です。横光利一は、親友である川端康成と共に「新感覚派」を立ち上げ、それまでの退屈な写実主義を破壊しました。国語の教科書に必ず登場する、最重要人物です。あの芥川龍之介がその才能に嫉妬し、太宰治が憧れ、三島由紀夫がその文体を大絶賛したのが横光利一です。当時の文壇での影響力は凄まじく、彼が動けば日本の文学が動くと言われたほどの時代の寵児でした。代表作『日輪』『機械』『旅愁』などは、今なお日本文学の最高傑作として研究されています。横光利一の資料は、全国の文学研究者や近現代文学ファンにとって喉から手が出るほど貴重な文化財です。これらを系統立てて展示する「横光利一展示室」を設ければ、全国から熱心な文学ファンが集まる「文学の聖地」を伊賀に創出できます。横光利一をパネル1枚の紹介で終わらせるべきではありません。橋本策は、1912年に世界で初めて「慢性リンパ球性甲状腺炎」を発見・報告し、医学の国際共通語としてその名が冠された「橋本病（Hashimoto's thyroiditis）」の発見者です。世界の医学史に不滅の足跡を残した医学者です。名前が世界共通の公式医学用語（病名）として地球上で使われている日本人は、ほんの数人しかいません。世界中の医師が毎日「Hashimoto」の名を口にし、世界中の患者がその恩恵を受けています。彼は「伊賀の偉人」というローカルな枠に収まる人物ではなく、野口英世や北里柴三郎と並ぶ、人類貢献度を持つ世界基準の偉人です。もし独立した「橋本策展示室」ができれば、それは単なる市民向けの展示に留まらず、国内外の医師、研究者、医療従事者、そして患者が訪れる「医学の聖地」になり得ます。橋本策の紹介をパネル1枚で済ませるべきではありません。伊賀市において松尾芭蕉が極めて巨大な存在であることは事実ですが、その影に隠れる形でこれら現代美術界・文学界・医学界の偉人たちの顕彰が「パネル数枚分」の簡易的な紹介に追いやられることは、地域が持つ多様な文化的資産の価値を自ら過小評価することに繋がります。他自治体であれば主たる目玉となり得るこれほどの偉人たちが一堂に会していること自体が、伊賀市の文化的ポテンシャルの高さを示すものです。	C 展示・鑑賞・体験	榊莫山、元永定正、横光利一、橋本策など、伊賀市ゆかりの人物の業績を分かりやすく紹介することは重要であると考えます。一方、独立した常設展示室又は常設展示スペースを設けるかについては、所蔵資料の内容、作品数、保存環境、展示面積、施設全体の規模及び他の展示とのバランス等を踏まえる必要があります。具体的な展示構成や展示スペースのあり方については、今後、展示計画及び基本設計の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
88	39	展示室の構成と考え方	展示室の具体的な構成やテーマを設定するにあたっては、理念や抽象的なテーマを先行させるのではなく、まずは伊賀市が現在所蔵している美術作品の具体的なリストを起点とし、その資産をどう活かすかという観点から逆算して考えるべきです。新美術博物館の展示室を価値あるものにするためには、箱（展示室）を作ってから飾るものを探すのではなく、今ある一級の所蔵品を「いかに魅力的に魅せるか」という構造で計画を立てるのが順序として適切です。伊賀市には、榊莫山、元永定正、奥瀬英三など、日本美術史に名を残す巨匠たちの貴重な作品がすでに多数所蔵されているはずです。これら「すでに手元にある本物の名品」の規模、サイズ、数、特質を正確に把握した上で展示室の構成を決めなければ、作品の魅力を最大限に引き出す空間は設計できません。展示テーマを先に決めてしまうと、それに合わせるための新たな作品購入費や、外部からの借用費など、運営段階で莫大な予算が必要になります。まずは市が誇る既存の美術資産を徹底的に精査し、それを核とした展示計画を立てることが、健全で無駄のない施設運営に繋がります。市民の財産である市の所蔵品リストをベースに展示が構成されることで、市民自身が「自分たちの町にこれほど素晴らしい美術品があったのか」と、ダイレクトに地域の文化的価値を実感できるようになります。「テーマに合わせた作品を並べる展示室」ではなく、「伊賀市が持つ一級のコレクションを主役にした展示室」にするためにも、まずは所蔵作品リストの精査と公開、そしてそれをベースにした展示室の再構成を求めます。	C 展示・鑑賞・体験	市が所蔵する作品や資料の内容、点数、保存状態、公開可能性等を把握したうえで展示構成を検討することは重要です。本計画では、伊賀市が有する文化資源や所蔵資料を活用し、調査研究の成果を展示に生かす方向性を示しています。具体的な展示テーマ、展示構成及び資料リストの取扱いについては、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
89	41	芭蕉エリア	芭蕉エリアについても、抽象的なテーマやイメージを先行させるのではなく、まずは伊賀市が現在所蔵している芭蕉関連資料の具体的なリストを起点とし、その現物の規模や重要度から逆算して展示空間を構成すべきです。芭蕉に関する展示は、すでに全国各地に存在します。後発となる本市の新施設が、それらの真似事ではない「伊賀市だからこそできる唯一無二の芭蕉展示」を実現するためには、手元にあるコレクションの徹底的な見極めが不可欠です。本市が持つ芭蕉資料のリストを精査し、その強みに特化した展示構成にすることで初めて、他の記念館を圧倒する学術的価値とオリジナリティが生まれます。イメージ先行の計画から「市所蔵の芭蕉資料リストの精査・開示、およびそこからの逆算設計」へと基本方針を転換することを求めます。	C 展示・鑑賞・体験	松尾芭蕉に関する展示については、伊賀市が所蔵する資料の内容や重要性を踏まえ、伊賀市ならではの特色ある展示とすることが重要です。展示資料の選定、展示空間の構成及び資料リストの取扱いについては、調査研究の成果や資料保存の観点も踏まえ、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
90	48	子ども展示室	子ども展示室のテーマである「五感を使い、全身で楽しみながら自然に学べる環境」を具現化するため、元永定正の代表作である絵本『もこ もこもこ』の世界を再現した体験型の空間を導入すべきだと考えます。『もこ もこもこ』は、色の変化や不思議な形の「もこ」「にょき」といった動きを通じて、子どもの知覚や好奇心を劇的に刺激する作品です。この絵本の世界を、触れる立体オブジェや、登ったりくぐったりできる柔らかな造形遊具として空間全体で再現すれば、まさに計画が掲げる「見て、触れて、五感で体験する空間」そのものになります。彼のアートが持つ、丸みを帯びた有機的でユーモラスなフォルムは、角がなく安全な設備設計（クッション素材の遊具など）と非常に相性が良いです。乳幼児から安心して遊べる、優しく安全な「モトナガ・ワールド」のプレイスペースは、保護者にとっても魅力的な場所になります。『もこ もこもこ』は全国のほぼ全ての親が知っている国民的絵本です。「あの『もこ もこもこ』の世界で遊べる美術館」となれば、市外・県外からも多くの親子連れがリピーターとして訪れるキラーコンテンツになり得ます。芭蕉だけでなく、伊賀の持つ「世界一級の近現代アートの土壌」を子どもの未来に活かすため、元永定正氏の世界観を主軸に据えた子ども展示室の空間づくりを提案します。	C 展示・鑑賞・体験	子どもが見て、触れて、楽しみながら伊賀ゆかりの芸術や文化に親しむ体験型展示は重要であると考えます。元永定正氏の作品世界を活用した体験型空間については、子ども展示室の魅力を高める具体的な提案として受け止めます。実施に当たっては、作品や著作権の取扱い、安全性、整備費、維持管理、展示スペース及び施設全体の構成等を踏まえる必要があるため、今後、展示計画、事業活動計画及び基本設計の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
3	11	情報発信の拠点	地域の子供たちの社会科見学等の実施（歴史教育を含め） また、市外及び県外からの社会科見学の誘致など歴史を広めていく、魅力をどのように発信していくかの確度を高めていただけると良いと思います。	D 子ども・教育	学校との連携は、本計画における重要な取組の一つです。市内の子どもたちの校外学習や社会科見学に加え、市外・県外の学校にも利用していただけるよう、学習プログラム、団体受入れ、広報等の具体的な内容を、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
10	8ページ	伊賀市の歴史と課題について	子供たちが、文化や、芸術に触れることは、豊かな人間性と創造性を育むために欠かせないので、学校から、郊外学習として見学をさせて欲しい。家庭では、連れていける親が、限られると思うから。	D 子ども・教育	すべての子どもが文化や芸術に触れる機会を確保するためには、学校との連携が重要であると考えます。校外学習や社会科見学、出前授業等の具体的な実施方法については、学校や教育委員会等と連携し、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
12	30ページ	美術博物館で展開する事業活動について	学校教育支援についての取り組みが細かく述べられているので、実行して欲しい。 子供たちみんなが、参加できるように学校との連携を密にしてもらいたい。	D 子ども・教育	学校教育支援は、本計画における重要な取組の一つです。市内の子どもたちが幅広く参加できるよう、学校の教育課程や移動手段、受入れ体制等を踏まえ、学校や教育委員会等との連携方法を、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
41	29～31ページ	「子ども展示室」 「教育普及活動」 「学校教育支援」	子どもが主体的に関われる展示や体験活動を重視している点に期待しています。 ただ、“見るだけ”の学習にならず、自分で考えたり、発見したり、表現したりできる仕組みをさらに大切にしてほしいです。 例えば、地域の人のお話を聞く活動、子ども自身が展示紹介を行う企画、学校と連携した継続的な探究活動などがあると、伊賀の文化を「覚えるもの」ではなく、「自分ごと」として感じられると思います。	D 子ども・教育	子どもが自ら考え、発見し、表現する探究型の学びは、本計画がめざす教育普及活動の重要な視点です。地域の方への聞き取り、子どもによる展示紹介、学校と連携した継続的な探究活動等については、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
50	1 1	基本理念の伝える	四つの基本理念のうちの伝えるについて、伝える対象として示す方向性では伊賀外部への伝えるについて示されているが、伊賀市民へどのようにしてこの文化をの伝えるのかや、将来を担う子供達へどのようにして伝えるかの視点が無いように思う。	D 子ども・教育	ご指摘のとおり、「伝える」は市外への情報発信だけでなく、市民や子どもたちに伊賀の歴史・文化を伝え、次世代へ受け継ぐ視点を含むものです。基本計画11ページ「伝える」を、松尾芭蕉をはじめとする伊賀の歴史・文化の魅力を市民や子どもたちに分かりやすく伝え、地域への愛着と誇りを育むとともに、次世代へ受け継ぐことが明確になるよう修正します。	①基本計画に反映	○
51	8ページ	(1) 子ども・若者が伊賀の歴史・文化に触れる機会の創出	子どもや若者が興味を持ちやすいよう、学校連携に加えて、休日イベントや親子で参加できる体験型企画を充実してほしいです。特に「また行きたい」と思える継続的な仕組みづくりを期待します。	D 子ども・教育	子どもや若者が継続的に関心を持つためには、学校との連携に加え、休日や長期休暇中のイベント、親子参加型の体験、繰り返し参加できるプログラム等が重要です。具体的な内容については、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
53	25ページ	事業活動の基本方針	「誰もが安心して訪れることができる施設」を目指すのであれば、小さな子ども連れでも利用しやすい休憩スペースや授乳室、飲食スペースなど、滞在しやすい環境整備を重視してほしいです	D 子ども・教育	小さな子ども連れの方を含め、誰もが安心して長時間滞在できる環境を整えることは重要です。休憩スペース、授乳室、おむつ交換設備、飲食スペース及びベビーカーの動線等については、施設規模や運営方法を踏まえ、今後、基本設計や管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
54	29ページ	子ども展示室	子ども展示室について、伊賀の歴史や文化への興味につながる工夫を期待します。忍者や俳句、伊賀焼などを実際に体験できると記憶に残りやすいのではないと考えます。	D 子ども・教育	子ども展示室では、見るだけでなく、遊びや体験を通じて伊賀の歴史・文化に興味を持てる展示をめざします。忍者、俳句、伊賀焼等を題材とした具体的な体験内容については、安全性、資料保護及び運営体制等を踏まえ、今後、展示計画や事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
62	48	子ども展示室について	伊賀は屋内で子どもが遊べる場所がないため、いいと思います。ますます暑さが強まるため、もっと広い方がいいです。	D 子ども・教育	子どもが天候に左右されず、安全に遊びながら伊賀の歴史・文化に触れられる屋内空間は重要であると考えます。子ども展示室の規模については、想定利用者数、必要な体験内容、安全性、施設全体の規模及び事業費等を踏まえ、今後、基本設計の中で検討します。具体的な展示・体験内容は、展示計画及び事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
70	48ページ	子ども展示室について	子供が体験できるワークショップなどあったら、喜んで体験できると思う	D 子ども・教育	子どもが自ら手を動かし、楽しみながら伊賀の歴史・文化に触れることができるワークショップは、関心を深めるうえで重要です。具体的なテーマ、対象年齢及び運営体制等については、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
4	67	収益確保と企業パートナーシップ	企業は地域貢献やC S Rの観点で協賛をするか否かをよく検討してます。協賛をすることのメリットや意義が伝えられる施策の深化を期待します。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	企業との連携を継続的なものとするためには、協賛の目的、資金の活用先、事業成果、企業にとっての参加意義などを分かりやすく示すことが重要です。企業パートナーシップ制度の具体化にあたっては、企業の地域貢献や社会的責任にもつながる、双方に意義のある仕組みを今後、管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
6	11	交流の拠点	個人的にですが、伊賀市に移住するまで松尾芭蕉が伊賀市出身であることを知りませんでした。（勉強不足かもしれません）知名度を上げるためのマスコミの使い方は是非ご検討をお願いします。（全国キー局や新聞、SNSや海外メディアなど既存ツールのフル活用を期待してます）	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	「芭蕉のふるさと伊賀」の認知度を高めるためには、効果的な情報発信が重要です。複数の媒体を組み合わせた広報の具体的な方法について、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
11	10ページ	(1)美術博物館のめざす姿について	伊賀の魅力を発見し、未来に向けた創造性を育むことは、大事な事だと思うので、沢山の人に来てもらえるように工夫してもらいたい。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	多くの方に継続して利用していただくためには、魅力ある展示や企画、分かりやすい情報発信、学校や地域との連携、繰り返し訪れたいくなる仕組みが必要です。具体的な取組については、今後、展示計画や事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
13	68ページ	運営方式の検討について	直営と、民間委託のバランスを上手くとるようにして欲しい。述べられているように、公共性が高い部門は、市が直営して、施設管理やショップ運営に民間委託をしたら良いと思います。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	継続性と専門性が特に求められる部門については、市が責任を持って担うことが重要であると考えます。一方、施設管理やショップ運営等については、民間のノウハウを活用することも考えられます。各業務の公共性、専門性、効率性等を踏まえ、今後、管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
38		桃青中学校あとが、一番いいと思う	伊賀市に生まれて、小さい頃から、芭蕉さんの歌を歌い上野公園に、写生にいき、おおきくなってきた私は、いつも、文化薫る観光都市なのに、なぜ、美術館がないのかと、思ってきました。芭蕉翁記念館にも、何回かいきましたが、はっきり言うておもしろくない。これからの美術館は、市民の憩いの場であることが、大切だと思います。俳句や短歌をしている人達など、貸し出せるお部屋もつくり、そこを通るたびに、常設の、絵画を、自然に見ることができる。散歩道があり、親子や年配のカップルが、時々いすに、すわって、絵画や、子供たちの絵をながめることができる。市民の暮らしのなかに、とけこんだものに、なってほしいと思います	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	美術博物館を市民の暮らしに溶け込み、気軽に立ち寄り、憩い、活動できる場所とすることは重要であると考えます。散策空間、休憩場所、作品を身近に感じられる空間等については、候補地や施設規模等を踏まえ、今後、事業活動計画や基本設計の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
40	19～20ページ	「未来を育む場」「集いと憩いの場」「第三の場として」	施設が“完成されすぎる”と、一度訪れて終わる場所になってしまう可能性があります。 美術博物館には、展示を見るだけでなく、「また来たい」「今日はどんな人や活動に出会えるだろう」と思える余白や変化が大切だと思います。 そのため、市民参加型の展示や、小規模でも継続的に変化する企画、来館者同士や地域との自然な交流が生まれる仕組みを大切にしてほしいです。 「完成した施設」ではなく、市民とともに育ち続ける文化拠点となることを期待します。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	市民参加型の展示や継続的に変化する小規模企画、来館者や地域との交流を通じて、美術博物館が市民とともに育ち続ける仕組みを設けることは重要です。今後、展示計画、事業活動計画及び管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
42	32ページ	「ゲートウェイ機能と地域経済への貢献」	美術博物館単体で完結するのではなく、まちなかへ自然に足が向く仕組みが重要だと思います。 伊賀には、建物や展示だけではなく、人との会話や地域の日常そのものに魅力があります。 地域店舗、商店街、個人活動、文化施設などと柔らかく連携し、「次はあそこへ行ってみたい」と思える回遊性を育ててほしいです。 観光施設というより、“伊賀というまち全体への入口”になることを期待しています。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	美術博物館を訪れたことをきっかけとして、地域の店舗、商店街、文化施設、史跡等へ足を運んでいただく仕組みづくりは重要であると考えます。地域事業者、観光関係団体等との連携や、情報案内、回遊企画等について、今後、事業活動計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
43	37～38ページ	「自然に生まれる交流とコミュニケーション」「更新性に優れた展示環境」	展示内容だけでなく、人が自然に会話したくなる空気感や居心地も大切にしてほしいです。 静かに鑑賞する空間だけではなく、感想を共有できる場所や、小さな交流が生まれる余白があることで、「また来たい」と思える施設になると感じます。 また、展示を固定化しすぎず、地域の出来事や季節、市民活動などに合わせて柔軟に更新できる仕組みがあると、何度でも訪れたくなる施設になると思います。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	静かに鑑賞する空間を確保しながら、鑑賞後に感想を共有できる場所や、自然な交流が生まれる居心地のよい空間を設けることは重要です。また、地域の出来事、市民活動等に応じて展示を更新できるよう、可変性のある展示環境や運営方法について、今後、展示計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
44	24～25ページ	「共創の場」「市民、学校、地域、事業者、文化団体などの多様な主体と協力」	「共創」という考え方に強く共感しました。 ただ、市民参加が単発イベントだけで終わらず、「関わり続けられる仕組み」になることが重要だと思います。 市民がアイデアを出したり、活動に参加したり、自分の得意分野を持ち寄れたりすることで、美術博物館そのものが地域文化の循環を生み出す場になると感じます。 運営側が完成形を提示するだけでなく、市民と一緒に少しずつ育てていく姿勢を大切にしてほしいです。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	市民参加を単発のイベントにとどめず、継続的に関わることができる仕組みとすることは重要です。サポート・スタッフ制度やサポーター制度、市民提案、共同企画等を通じ、市民の知識、経験、得意分野を生かせる仕組みについて、今後、管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
56	11ページ 他	賑わいの創出、憩い集う場所、カフェスペース	昨今のテレビでもグルメ番組が溢れているように、食べ物には老若男女問わず誰もが興味を持つ最大の関心事です。芭蕉の俳句にも食べ物や飲み物、お菓子などを詠んだ句がいくつもあります。俳句に出てくる食材や、奥の細道の旅先での郷土料理などを組み合わせ、魅力的なランチや茶菓子セットを作れば、芭蕉や俳句に興味がない人でも「ちょっと訪れてみようか」と思う人も出てくると思います。その際、その食べ物に関する俳句を載せた短冊を添えれば、「こんな俳句もあるんだ」と興味を持つきっかけにもなります。さらに精算時のレシートで入場無料になるような特典をつければ、「ついでに中に入って色々見て回ろうか」と思うような人も現れます。これは来館者数増加にも繋がります。計画書には「カフェを作る」と1行サラッと書いてるだけで、具体的な内容がありません。「とりあえず休憩場所を作っておけばいいか」という感覚でなく、若年層の参加、賑わいの創出や様々な交流場所を目指すのなら、食事を入口にして施設全体に人を引き込む仕組みを作る、グルメも組み込むのはどうでしょうか。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	カフェのメニュー、展示との連動、入館促進策等の具体的な内容については、採算性、運営方法、民間事業者との連携等を踏まえ、今後、事業活動計画や管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
57			歴史ある伊賀市が美術館によって人を呼べる地域になればいいと思っています。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	美術博物館が、伊賀の歴史・文化の魅力を市内外に伝え、伊賀を訪れるきっかけとなる施設をめざすことは、本計画の重要な方向性です。周辺施設や地域との連携、効果的な情報発信、魅力ある展示や企画等を通じて、地域全体の魅力向上につながるよう、今後の検討の参考とします。	③参考意見とする	
63	40	全体について	儲ける仕組みがないのが気になりました。お土産コーナーがあってもいいと思います。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	持続可能な運営のためには、入館料だけでなく、ショップ、オリジナルグッズ、カフェ、体験事業、寄附、協賛等を組み合わせた収益確保を検討する必要があります。お土産コーナーを含むミュージアムショップの具体的な内容については、今後、管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
71	63	誰にでもひらかれた美術博物館	施設の重要な役割として未来を担う若者世代に芸術、文化にふれる場としての役割が最重要課題となる中、運営について踏み込まれていないような気がします。大前提として、費用負担が多くなればどれだけ良い施設でも集客は厳しくなるかと思います。若者世代は保護者がおり、その元に行く施設の選定が入るかと思いますが、若年層のみならず子育て世代においても無償化などの配慮のもと、開かれた運営を目指していただきたいです。よく私の子供も、新堂のDMG Mori 図書館や、新図書館を利用させていただいてますが、妻が心地よいと感じる場所は子供にも伝染するかのように、影響を与えていきます。その心地よさがふるさとを思い返す一つになるのではないのでしょうか。ぜひ、良い施設になるようにしていただきたいです。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	若者や子育て世代を含め、誰もが利用しやすく、心地よく過ごせる施設とすることは重要であると考えます。入館料、減免・無料化の対象、無料開館日等については、持続可能な運営、利用促進及び他施設の状況等を踏まえ、今後、管理運営計画の中で検討します。また、親子が安心して過ごせる空間や居心地のよい環境については、今後、基本設計及び管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	
83		PFI手法	何でもかんでも民にやらせればよくなるような錯覚を起こしている。民は利益を求めるが、与える学問ではマッチしない。何よりも公共事業がPFIでは民間工事になり地域経済の活性化には役に立たない。例えば旧上野庁舎の改修条件の「図書館」と「観光案内」のうち観光案内は畳一畳程度しかありませんがこれでOK? こんなになってしまいます。	E 交流・発信・集客・運営・市民参加	直営、一部業務委託、指定管理者制度及びPFI等の手法について、文化施設としての公共性、専門性と継続性、市の関与、費用、地域経済への効果及び民間ノウハウの活用可能性等を比較し、今後、管理運営計画の中で検討します。	②今後検討する各計画等で検討	

番号	掲載ページ（原文）	該当箇所（原文）	市民の意見（原文のまま）	分類	市の回答（案）	対応区分	反映
48				分類対象外（具体的意見なし等）	－		
61			他からの移住者の為、回答不可能	分類対象外（具体的意見なし等）	－		
65	1	神戸		分類対象外（具体的意見なし等）	－		
67				分類対象外（具体的意見なし等）	－		
69				分類対象外（具体的意見なし等）	－		